

- 鉄スクラップ輸出先が遠方化(韓国・中国⇒東南アジア以遠)する中でも、効率的な海上輸送を維持するため、関係者や他港連携により、貨物の集約化・船舶の大型化を図るため、酒田港の地元関係者・本局による検討会を企画
- 第1回の検討会を8月18日(火)に開催

第1回検討会

●日時・場所

令和2年8月18日13:30～15:00 於:酒田港湾事務所会議室

●参加者

東北地方整備局・山形県・酒田市・NPOリサイクルポート情報センター
(アドバイザー)港運事業者(2者)・鉄スクラップ事業者(3者)
北海道開発局(石狩湾新港関連:web出席)

●議事内容

- 検討会開催について
- 我が国における循環資源に関する動向について
- 酒田港の計画について
- 循環資源(鉄スクラップ)輸出における先進事例について(北海道)

●主な意見

- 輸出先の遠方化の対応には船舶の大型化が必要だが、水深10mでは大型船の入港が厳しく、水深12mは必要
- 各港で相積みする方が、貨物量の増加(船舶大型化)しやすい
- 各港相積みを行う上では、各港が品質水準を満たすことが前提
- 船舶の大型化に伴い、荷役機械の大型化も必要
- 荷さばき地の利用調整も重要
⇒先進港(石狩湾新港)の詳細を現地で視察する方向で調整

酒田港における鉄スクラップ輸出のポイント

- ・酒田港からの金属スクラップの輸出は、現在は韓国・台湾向けが大宗を占める
- ・韓国国内の金属スクラップ発生量が増加し、輸出へ転換することにより、東南アジア以西への輸出へ転換していく見込み
- ・遠方国への輸出には船舶の大型化が必要(貨物の集約、各港相積みを視野)



第1回検討会の状況

第1回酒田港における循環資源の効率的な海上輸送促進に向けた検討会 議 事 概 要

日時 令和2年8月18日（火）13:30～15:00

場所 酒田港湾事務所会議室

議事

我が国における循環資源に関する動向、酒田港の計画、循環資源（鉄スクラップ）輸出における先進事例について出席者より説明し、意見交換を行った。

参加者からの主な意見は以下のとおり。

- 近年、鉄スクラップの輸出先に関しては、東南・南アジアなどに遠方化している。輸出先の遠方化の対応には船舶の大型化が必要。現在の古湊2号、3号岸壁の水深（10m）では大型船の入港が厳しく、水深12mは必要。
- 酒田港背後圏で発生する鉄スクラップについて、酒田港の利便性がさらに高くなれば、酒田港の利用が増える可能性はある。ただし、各港で相積みする方が、貨物量を増加させやすい（大型化しやすい）と思われる。
- 南アジアでは、ダストの少ない高品質の鉄スクラップを求める傾向にあるなど、鉄スクラップの品質についても重要で、各港相積みを行う上でも、各港が品質水準を満たすことが前提と考える。
- 品質については、数年前から厳しく指摘されており、酒田港のリサイクル事業者として品質向上の取組を行っているところ。
- 船舶の大型化の対応として岸壁の整備も必要だが、荷役機械の大型化もあわせて検討が必要。
- 船の大型化により取扱量が増えるとバースの利用調整、船舶大型化に対応した背後のふ頭用地の専用的な利用も課題となる。バースの利用状況を含めて詳しい情報を得るために、可能であれば、石狩湾新港の現地視察を行いたい。